

麦づくり情報(No.1)



1. 生育概況

11月は平年より降雨が少なく、乾いている圃場が多く、播種作業および出芽は順調であった。12月の気象は暖冬傾向で、気温は平年よりも高く、降雨量は平年比250%と多くなっている。11月中下旬に播種した小麦は現在4～5葉期となっており、平年より高い気温により旺盛な生育となっている。大麦の播種は、11月下旬より始まったが、12月初旬の降雨により中断し、12月上旬がピークとなった。12月上旬に播種した大麦は現在1～2葉期となっている。

2. 今後の管理

○追肥 施用時期の目安:本葉3～4葉期

- ・11月中に播種された圃場では生育が進んでいるため、施用時期が平年よりやや早くなっている。追肥時期を迎えているため、麦の生育を確認し施用する。
 - ・12月上旬に播種された圃場は1月中旬ごろになると考えられる。
- ※大豆後圃場は出芽が早く、生育が早い傾向にあるので、小麦圃場の追肥は、時期を逸しないよう気を付ける。大麦圃場は施肥しない。
- ※晩播した圃場で、追肥施用分も併せて元肥に重点施肥した場合は追肥を施用しない。

○麦踏み・土入れ

<麦踏み>

- ・3葉期以降から始める。土壤の碎土（3cm以上のゴロ土）が悪い圃場では出芽期～2葉期の生育初期に行くと、断根等による初期生育を阻害することがあるため行わない。
- ・麦踏みは土壤が乾燥した状態で行い、土壤が湿潤な状態では行わない。

<土入れ>

- ・本葉5～6葉期から、雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に実施する。
- ・分げつ初期に土入れする土の量が多いと、分げつを抑制することがあるため、基本的に土の量は、生育初期は少なめに、生育が進むにつれて量を増していくこと。

○排水対策

- ・生育期間中の湿害対策として、土入れに加え、溝をまくら地まで通すなどして排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。

○雑草対策

雑草の発生が見られる圃場では、生育期処理剤（ハーモニー剤等）で早めに対処する。

【注意】麦踏み：麦踏み前後の除草剤散布は、薬害を助長するため避ける。

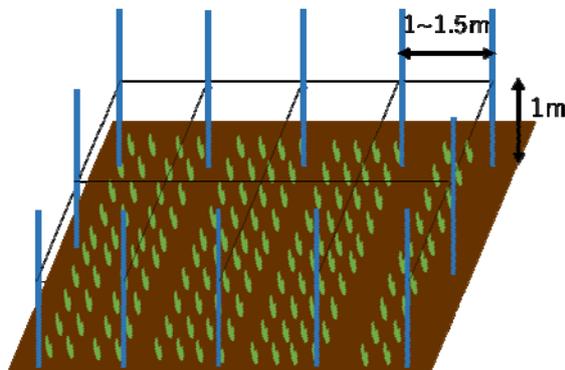
土入れ：除草剤散布直後に行くと、有効成分の根部吸収が妨げられるので控える。

薬剤名（茎葉処理剤）	麦生育ステージ	雑草
ハーモニー75DF 水和剤	麦1葉期～節間伸長前 （ス`メテッ`ウ5葉まで 加`ノグ`サ1～3葉まで）	イネ科雑草 広葉雑草

○鳥獣害対策

・カラス

黒のワイヤ線としなりやすい支柱を用いて、カラスの翼を広げた時の長さ（1～1.5m）の間隔で約1mの高さに設置することにより、飛来するカラスは嫌がる。ただし、歩いてくるカラス、ハトやカモには効果がない。

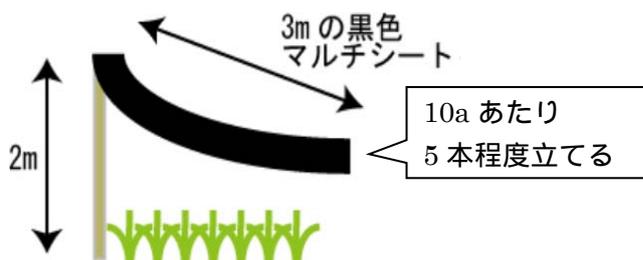


・カモ

特にクリーク沿いにある圃場など食害に遭いやすい圃場では、のぼりを立てる等の対策を実施する。

【のぼりの設置について】

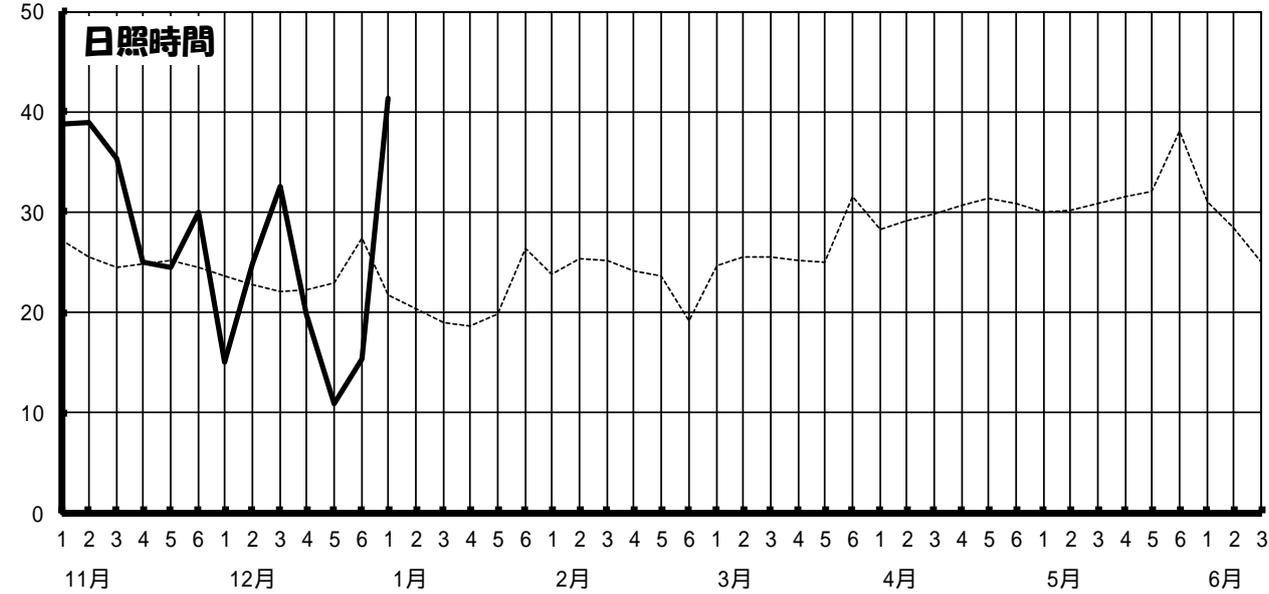
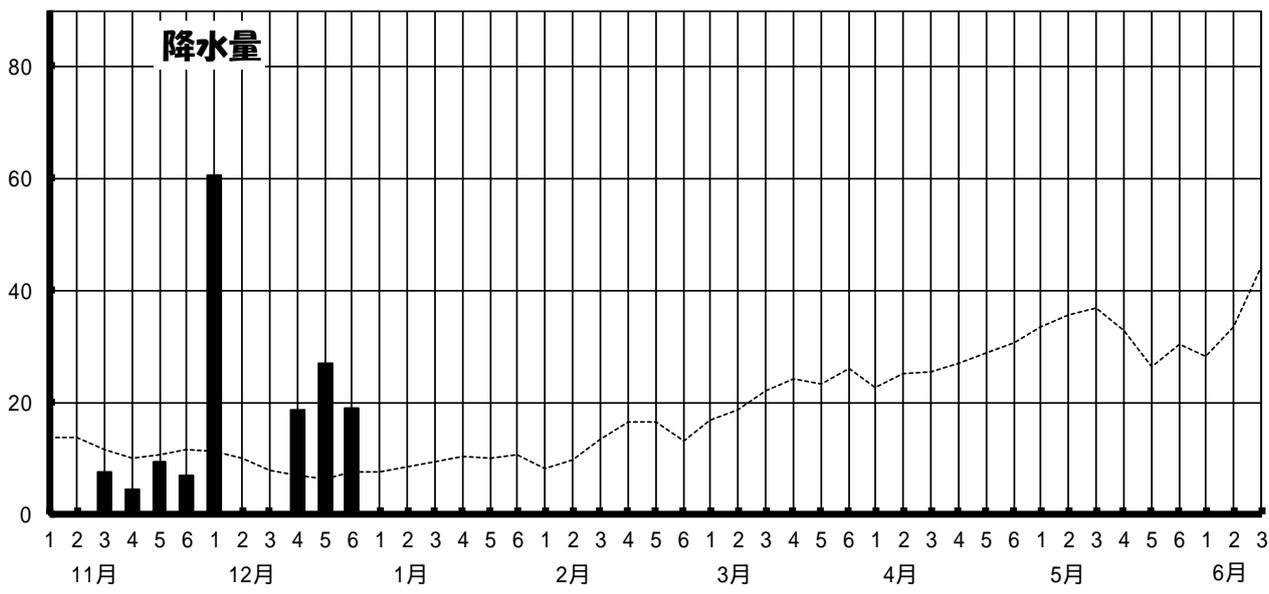
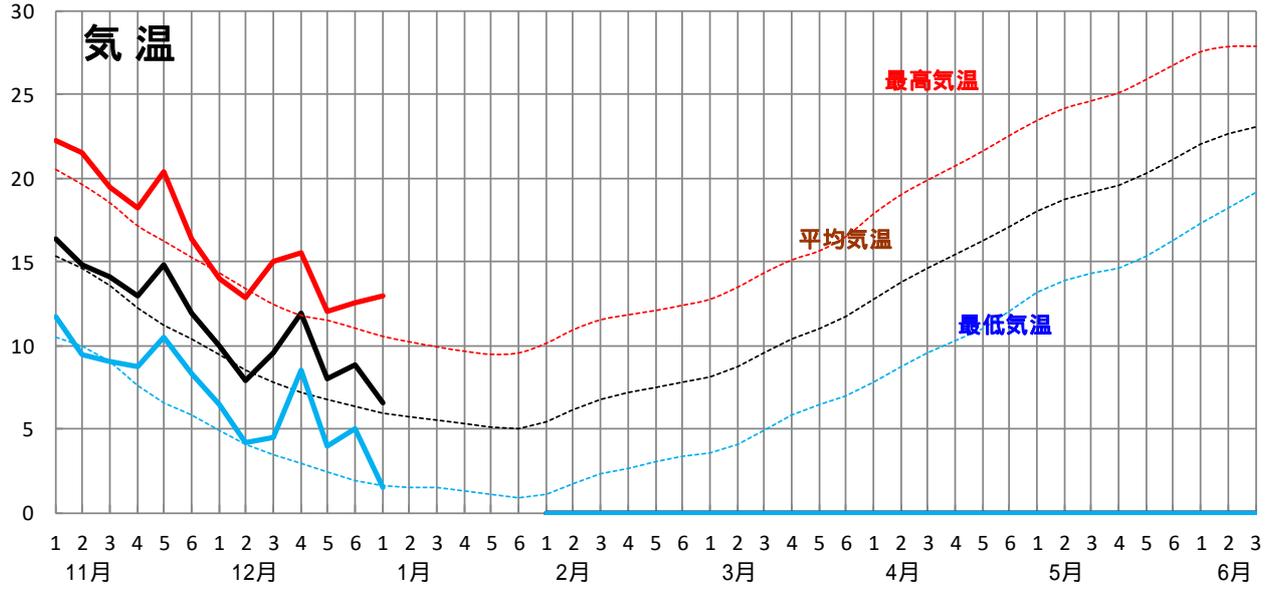
支柱に黒色マルチを吊したものを設置する。カモは水路から侵入することが多いため、圃場の水路寄りの部分を中心に設置すると効果的である。



カモによる食害
バリカンで剪定したように見える

2年産麦類生育期間気象グラフ アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値